

子どもが考え、行動する力を育む
あるぷす
へようこそ!!

文部科学省
地(知)の拠点

参加者
(小学4年生~中学生)
当日スタッフ
(高校生・大学生・社会人)
募集中

あるぷす
タウンでの遊びかた 暮らしかた

市民証とお金をもらう
(地域通貨)
参加決定後に
ご自宅へ郵送
します。

手持ちのお金を使う
あるぷ
お店で買い物をした
り、松大ビックに挑
戦したりできます。

市長・議員
になる
あるぷすタウンを
もっとよい街にし
ていこう。

自分のお店
をひらく
自分のやってみ
たい仕事を実現で
きます。

オリエンテーション
詳しい遊びかたの説明を
聞きます。
※保護者のみなさんも
ご参加できます。

手持ちのお金を増やす
仕事をする
ハローワークで仕事
をみつけます。

給料をもらう
銀行で稼いだお金を
引き出します。

税金を払う
稼いだ額に応じて税
金を税務署に収めま
す。残りのお金は自
由に使えます。

あるぷす
タウンの仕事の例

- 市長
- 議員
- 市役所
- 銀行
- ハローワーク
- 税務署
- ラジオ局
- 病院
- 新聞屋
- お花屋
- 雑貨屋
- 写真屋
- 清掃業
- 漫画家
- 食べ物屋
- 建築
- 植木屋
- 鉄道
- 山雅ミュージアム
- 他

主催：松本大学地域づくり考房『ゆめ』
企画運営：あるぷすタウン実行委員会

2015年2月28日(土)
3月1日(日)

午前10時~午後4時
松本大学 5号館にて
参加費：1,000円(地域通貨引き換え分)

申し込み等の詳細はHPをご覧ください。
<http://alpstown.naganoblog.jp/>

つぶやき

今回企画している「あるぷすタウン」は、子どもたちがまちを運営し作り上げていく子どもだけのまちです。

本物の仕事をプロの方に指導していただき、実際の仕事に触れ、給料を稼ぎ、税金を納め、残ったお金は自分の好きなように使う、という社会システムの基本を知ってもらおうという取り組みです。

学生と社会人で実行委員会を発足し、ブースの企画や専門家の方への協力依頼などを行っています。今回が初めての開催なので全員が手探り状態ではありますが、初めてだからこそ様々なアイデアが飛び交い、私たち学生もゼロからの企画という貴重な体験をすることができています。実行委員、当日スタッフはまだまだ募集中です!!!一緒にあるぷすタウンをつくりませんか?

あるぷすタウン実行委員長 片瀬 咲季 (スポーツ人間健康学科3年)

お問い合わせ、ご意見等は下記へご連絡ください。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1
松本大学 7号館 2F
TEL: 0263-48-7213 (直通)
FAX: 0263-48-7216 (直通)
E-mail: community@matsu.ac.jp
URL: http://www.matsu.ac.jp/matsumoto_u/yume/

※開館日時：月~金 9:30~18:30



2~5 地域と大学の連携事業「産学官民協働事業」の取り組み

- 親子の交流の場づくりと上高地線の活性化へ キッズトレイン発車!!
- 一緒に考えて! 諏訪の観光と美術館・博物館 他

6 松本BBS会の活動

7 松大生がつくる情報発信のページ 学生ゆめ

8 Information

考房『ゆめ』は社会貢献活動を行う学生を支援しています。地域の方からの「お願い」を松大生とともに創造しています!



地域づくり考房『ゆめ』キャラクター こう坊

地域と大学の連携事業「産学官民協働事業」の取り組み

地域づくり考房『ゆめ』では、地域の課題解決にむけて学生と行政・企業・自治会・市民活動団体等、地域の様々な組織・機関の方々が協働して取り組む産学官民協働事業を行っています。

今号では、学生プロジェクトと地域の組織・団体と実施してきた協働事業を特集で紹介しします。協働事業は、最初に関係者が集い協働する意義や各々の役割を明確にし、両者合意のもとに企画・実行していきます。そのことで関係が明確化し、学生にとっても地域にとっても有意義な活動が展開されています。

考房『ゆめ』OGと元保育士親子×学生×松本大学子どもあそび隊

キッズトレイン!! 企画・運行

上高地線の電車を貸し切り、親子の交流の場づくりを通して、多くの方に上高地線に愛着を持っていただくこと、9月7日に考房『ゆめ』キッズトレイン実行委員会主催で特別列車を運行しました。参加希望者が60組を超え、11月8日にも松本市が実施する「バスと電車の交通ひろば」に併せて運行することとなりました。

当日はアルピコ交通「なぎさトレイン」の車内が小さな子ども達のあそび場に変身！車内は、カーペットを敷き、手作り装飾で暖かな空間を演出。手遊び・乗車ルールを楽しく伝える大型紙芝居・親子ふれあい歌体操などの全体会を実施。さらに親子で楽しむスタンプラリー（魚釣り・輪投げ等）と段ボールトンネルや、曲にあわせて手作りマラカスで踊ろう、立見台で運転席や車窓見学、絵本コーナーなど多彩な催しや、くつろぎ・飲食・授乳・おむつ交換コーナーが設けられました。終了後は、「ゆめトレイン」ヘッドマークやなぎさちゃんパネルと一緒に記念撮影、フリーキップで電車の旅、交通ひろばへの参加等、各家族で楽しいひと時を過ごしていただきました。

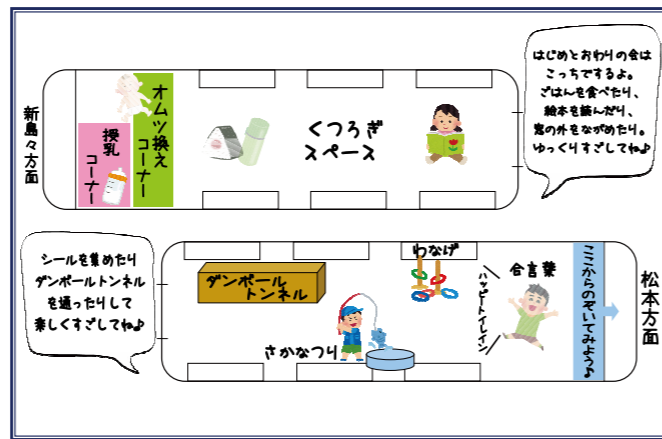
学生時代地域活動に関わった本学卒業生と元保育士。その経験値と母親目線の細かな気配りや楽しむ気持ちが学生のアイデア等と融合し、楽しい企画が生まれました。



子どもたちに人気のダンボールトンネル!



子どもたちとの関わりにもスタッフも笑顔!



ヘッドマークへの想い

「考房『ゆめ』の夢を乗せた列車」という意味を込めて「ゆめトレイン」というヘッドマーク(車両の先頭部分に飾る看板)を製作しました。今後、車内でスイーツやフリーマーケットなどを楽しむことのできる列車も走らせたいと思います。

【協賛・協力】

- アルピコ交通 株式会社 様
- 株式会社 長野放送 様
- 山村電業 株式会社 様
- 松本大学生生活協同組合 様
- 松本市地域公共交通協議会(松本市) 様
- 株式会社 アビックス 様
- 月刊イクジ 様
- デリシア波田駅前店 様

たくさんの方々の協力がありキッズトレインを走らせることができました。本当にありがとうございました!!

キッズトレインをやったよかった

キッズトレインを開催するにあたり、参加者の対象年齢はどうするのか?電車の中で何をやりたいのか?を皆で考えるところから始まりました。その時点では、最終的にはどうなるかはまったく想像できませんでした。

内容が決まり形になっていくうちに、キッズトレインが走る日が楽しみになっていきました。開催当日に参加してくれた子どもたちの笑顔や楽しんでいる姿を見て、キッズトレインをやったよかったなあ、と思いました。

峯村 佳奈 (松商短期大学部1年)



笑顔が絶えないキッズトレイン

夢のような企画だと思い、スタッフをさせていただきました。息子は電車好きにも関わらず電車を利用する事が無いので、良い機会でした。

学生達との準備は春からスタートし、電車内は揺れて危険なので、小さな子供でも安全に遊べる物を考えました。娘を見ながらの作業でしたが、学生達が毎回笑顔で接してくれ、色々な話をしながらだったので楽しかったです。

当日の電車内は大賑わい!100名の参加者が思い思いに遊び、親子も学生も笑顔が絶えないキッズトレインとなりました。

お母さんスタッフ 春原 英里

参加者の声

- 小さい子供でも出来るものばかりで、自分で出来ることに子供は満足して楽しんで出来た。
- 手作りの暖かさが伝わり、心地よい空間でした。
- 電車に乗せるのも周囲に気を遣うところだけけど、のんびりと満喫させていただき、ありがとうございました。

みんなて乗ろう!

松本市地域公共交通協議会(松本市)×松本大学「キッズスポーツスクール」×信州大学工学科

バスと電車の交通ひろば

松本市内を電車とバスで巡るスタンプラリーを実施しました

11月8日に松本市都市交通課のモビリティ事業の一環として、のりものラリーを実施しました。松本市内にクイズポイント8か所とミッションポイント4か所を設置し、親子で公共交通機関を利用して各ラリーポイントを巡りました。電車やバスを上手く利用すれば、車を使わずに松本市内で遊べるということに気付いてもらいたいと思い実施しました。ミッションポイントでは、手形押しやストラックアウト、かえる電車の前で制服を着て写真撮影、風船飛ばしなどを行い、親子で楽しんでもらえる内容で企画しました。

このイベントをきっかけに、電車やバスの乗り方や利便性を実感し、公共交通機関の利用者が増えることを期待しています。

松本大学キッズスポーツスクール代表
廣岡 帆晴 (スポーツ人間健康学科3年)



新村駅「かえる電車」内(旧電車)



わくわくのりものラリー「メイキングラリー」づくり

参加者の声

- 手形押しがたのしかった!
- 電車やバスに乗れてたのしかった。また乗りたい!
- なかなか電車に乗る機会がなかったので、このような機会に体験させることができよかった。
- 親子で協力してミッションをクリアできたので、子どもと一緒に楽しむことができました。

地域と大学の連携事業「産学官民協働事業」の取り組み



地域発 Sign × 諏訪湖アートリング協議会 × 長野県長寿社会開発センター 一緒に考えて！諏訪の観光と美術館・博物館

みなさんご存知でしょうか？諏訪湖の周りには、17もの文化施設（美術館・博物館など）があるんです！それらの施設が連携し、諏訪湖アートリング協議会が結成されています。8月22日～9月23日には「諏訪湖まちじゅう芸術祭」が開催されました。

県長寿社会開発センターからの紹介で、協議会から各文化施設のバリアフリー調査と若者が訪れたいような施策発案の依頼がありました。

そこで、大学周辺のまち歩きを行い、聴覚障がい者にとって不便なところを調査する活動も行ってきた学生プロジェクト Signが協働で行いました。



実際に車いすに乗って調査しました

欠けてしまっている点字ブロック…

地域の宝と課題にも目を向けて改善方法を共有

10月25日に各文化施設関係者・マイスター（諏訪湖アートリング検定に合格した諏訪の文化芸術案内人）などの方々が集まり、「一緒に考えて！諏訪の観光と美術館・博物館」をテーマにしたワークショップなどを行う『アートリングナビゲーターミーティング』が開催されました。そこにSignのメンバーも参加し、調査報告を行いました。ワークショップでは、地域の宝と課題にも目を向けて改善方法を共有しました。

今回の調査・ミーティングへの参加は、自分たちが住むまちの魅力に改めて気づくことができ、Signの活動にも繋がるような気づきを得ることができた貴重な経験になりました。

Signまち歩き担当リーダー 原 静香（観光ホスピタリティ学科4年）

障がい者観光から見たホスピタリティー

学生の真剣な取り組みはもとより、思いがけず人と人のつながり、コミュニケーションを大事にしている点に感心させられました。それは、どんな施設にも限界はあります。しかしそれを補うのはそこにいる我々スタッフだと気づかせてくれたのです。

後日のナビゲーターミーティングでは「諏訪の観光と美術館・博物館」というテーマで80人、9グループのグループワークをリードし、長所と課題、対策について具体的な提案をまとめていただきました。様々な提案に「一つ一つできることから取り組もう」が今我々の会議テーマです。福島先生、学生の皆さん、ありがとうございました。

諏訪湖アートリング協議会 事務局長 細川 智浩

報告内容

【バリアフリー視点】

- ・バリアフリーの設備があっても、活用されていないところがあった
- ・バリアフリーを充実させるだけではなく、施設の人への対応が重要なのではないか

【若者誘致のために】

- ・流行を取り入れた企画や展示をする
- ・施設内外の雰囲気統一させる
- ・写真が撮れるスペースを作る …etc



バリアフリー視点・若者視点から分かったことを報告しました

行政発 ◎いただきます!! × 松本市環境政策課 食品ロスをひろめたい!!

「ヘルシーメニュープロジェクト」は「◎いただきます!!」という名前に変わりました。「いただきます」という言葉には食材である植物や動物の命を絶ち調理し、それらの命をもらって人間が自らの命を維持し生存することへの感謝の意味が込められています。私たちはその食材への「感謝の心」とともに「もったいないの心」を持って活動に取り組もうという思いでこの名前を付けました。また、◎はお皿を、!!はお箸を表しています。

松本市が行う食品ロス事業と一緒に進め、削減に基づいたレシピ集完成に向け「残り物リメイク」「野菜まるごと調理」「地域からのアイデア募集」の3班に分かれ、学生・地域の方考案のレシピを作成していきます。活動の第一歩として梓乃森祭では人参・大根・さつまいもを皮ごと調理した豚汁販売とアンケートによる食品ロスに関する意識調査を行いました。

◎いただきます!! 代表 中沢 美鈴（健康栄養学科2年）



学祭で皮ごと野菜を使った豚汁を販売

市の方より

松本市では、「もったいない」をキーワードとしたごみ減量施策に取り組んでいます。中でも、まだ食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」に注目して、家庭、事業者など様々な分野で食品ロスを減らせるよう「残さず食べよう！30・10（さんまるいちまる）運動」を展開しています。残りものをひと工夫する料理、今まで捨てていた物の料理など「もったいないクッキング」を推進しています。今回、松本大学と連携し学生ならではの柔軟な考えや発想を取り入れたレシピを提案し、周知していただける活動をする事になりました。レシピ集は、市民の皆さんに使ってもらうことで、食品ロス削減の推進を図りたいと考えています。

丸山 祐太郎（松本市環境政策課）

学生発 ええじゃん栄村 × 新村公民館 復興支援活動に協力を!!

「ええじゃん栄村プロジェクト」では栄村の復興支援として様々なことをしています。主な活動として栄村の特産品の行者ニンニクを使ったお菓子の開発と販売、栄村の「ぶらり農園」に考案したメニューの提供などしてきました。11月2日の新村文化祭でこれまでの活動を紹介し、さるぼぼの販売をさせていただきました。さるぼぼは栄村のおばあちゃんがひとつひとつ手作りしたもので、パッケージは学生が考えたものです。

公民館の方も、文化祭に来る方も皆気さくで和気あいあいと販売ができたのでとても楽しかったです。発表は緊張しましたが、人の優しさがたくさんふれていい経験をした2日間でした！

ええじゃん栄村代表 高井 瑞季（健康栄養学科2年）



新村公民館でさるぼぼ販売

聴講者の声

- 「栄村の震災が忘れられつつある」という言葉にはとした。同時期の東日本大震災の影響もあり、関心はそちらに向けられがちだが、県内で起きたもう一つの大きな震災に対して関心や知識をもっと持つべきだと感じた。
- 同じ地域にある大学の学生がこのような活動をしていることに驚き、そして嬉しく思った。大変だろうが、継続して欲しいと思う。
- 「ええじゃん栄村」の活動は大学生ならではの発想で栄村の支援を行っていて、感心した。実際に現地に何度も足を運んでいる様子が伝わり、栄村の方々にとっても張り合いになっているのではないかと感じた。さるぼぼも可愛かった。

学生発 お元気ライフぷろっぷす × 新村福祉ひろば × キッズスポーツスクール 健康づくりへの関心を高めたい!!

今年度、「お元気ライフぷろっぷす」では、書道体験とふれあい運動あそび教室を開催しました。

書道体験は今年が初めての企画です。生きがいづくりのお手伝いとして書道を取り入れ、運動もプログラムに入れることで、健康づくりへの関心を高めたいと考えていました。新しい企画でしたが、4名の方が参加してくださいました。

最初に自分の名前を筆で書き、全員で自己紹介をしました。その後、臨書、創作と触りの部分ですが、みんなで書道体験をしました。2時間程でしたが、お話をしたり、時には集中したり、合間に軽い運動を入れるなどして、終始和やかな雰囲気ですべてを進めることができました。

運動あそび教室は、昨年度に引き続きお年寄りとお子様の交流を目的に開催しました。2つの活動とも、地域の方とともに健康づくりを考えるきっかけになったと思います。

牛丸 みずき（観光ホスピタリティ学科1年）



書道を通して健康づくり

第4回 松本大学地域貢献大賞 エプソンユニオン賞 Signが受賞しました!



私たちSignは10月19日に行われた松本大学地域貢献大賞選考会にエントリーしました。この選考会は学生が学内外の審査員に、今まで行ってきた地域活動をプレゼンテーションでアピールし大賞が決められるものです。選考会では大賞には至らなかったものの、エプソンユニオン賞という名誉ある賞をいただくことができました。

聴覚障がいについてより多くの人に知ってもらいたい、住みやすいまちづくりをしたいという思いで活動してきた4年間の集大成を、受賞という形でいただけたことをとてもうれしく思います。

今後は後輩たちにバトンを渡し、聴こえる人と聴こえない人の架け橋になれるような活動を続けていきたいと思っています。

Sign代表 市田 祥子（総合経営学科4年）

松本BBS会

松本BBS会とは?

少年少女の成長の手助けと非行のない地域社会を目指し、学生と社会人が一緒に活動しています。



バスケットで社会参加活動



BBSって?

非行をはじめ、社会適応に悩む多くの少年少女に、兄や姉のような存在として、一緒に悩み、学び、ボランティア活動をしている団体です。

主な活動

●定例会

月1回程度、1カ月の活動の報告会も兼ねて行っています。

●有明高原寮への訪問

安曇野市穂高の山麓にある少年院、有明高原寮を月1回訪問します。

社会に出る間際の少年達と座談会などでいろいろ話をしたり(いろいろばた集会)、6月頃にスポーツ交流会、12月にクリスマス会を行っています。

●社会参加活動

保護観察中の少年たちと料理づくりやスポーツなどを通じた交流をしています。

●学習支援

中学校に行き、生徒たちと交流をメインとした学習支援を行います。

●ともだち活動

少年と1対1で、相談にのったり一緒に遊びに行き、お兄さん、お姉さんの存在で関わっています。

学生の継続した活動に期待

会員32名のうち20名が松本大学生になりました。現在、有明高原寮(少年院)、長野保護観察所、市内中学からの依頼で少年たちとの立直り支援、学習支援をしています。少年と同じ目線で、寄り添うような関係作りに取り組む在学生・卒業生の皆さんの姿は関係団体にも好評です。今後も学内で活動が継続されていく事を期待しています。

松本BBS会会長 小松 寿美代

アルプス公園でゴミ拾い

偏見のない社会づくりへ

松本BBS会に入って一番良かったことは、自分の価値観が変わったことです。そのきっかけになったのが、保護観察中の少年たちとの交流でした。保護観察とは、犯罪や非行に走ってしまった少年を、保護観察官・保護司による指導監督のもと、更正させる制度です。

最初はそんな少年たちと上手く交流できるか不安で、正直「怖い」と思っていました。でも実際に接してみると、みんな明るくて、私達が企画したスポーツレクにも積極的に参加してくれ、茶話会でも話しかけてきてくれて、とても楽しかったです。また、先輩から『自分たちをどう思いますか?』という少年からの質問があったという話を聞き、彼らが他人の目を気にしていることを知りました。

以前の私のように、偏見的な価値観を持つ人は社会に多くいるはず。偏見を少しでも無くしてもらえるきっかけになり、少年たちが社会復帰しやすくなるように、まずは私自身が会の活動を積極的に行い、会として色々な人に興味を持って貰えるような活動をしていけたらよいと思います。

奥原 眞音(総合経営学科1年)



社会参加活動「アップルパイ」づくり

梓乃森祭 『ゆめひろば』



コムハウス

コムハウスは障がいのある方の就労支援や地域交流を行っています。ここでは、秋に収穫したほうずきや手作りクッキーなどを販売していました。学生ゆめの取材陣もほうずきの味見をさせていただきました。甘酸っぱくて懐かしい味でした。



ヘルシーメニュー

豚汁の販売と、松本市環境政策課と一緒に食品ロスについての展示とアンケート調査を行っていました。豚汁に使われていた、にんじん、大根、さつまいもは皮ごと使用し生ごみを減らす取り組みを行っていました。わざわざヘルシーメニューの豚汁を探して訪れてくれたお客さんもいたそうです。



展示コーナー

考房『ゆめ』のプロジェクト紹介や、学生と地域が連携した地域活動がたくさん展示されました。今年度は内容が豊富で、にぎやかな教室になりました。訪れた人は「色々なことをやっているんだね」と話を弾ませながら楽しんでいました!



Sign x サマライズ

聴覚障がい者のコミュニケーションツールを知ってもらおうと2つの体験を行いました。要約筆記体験では、緊急時を想定してニュースの内容を分かりやすくメモに取るという体験などを行っていました。手話体験では実際に聴覚障がい者の方と交流しながら体験を行っていました。



ええじゃん栄村

ええじゃん栄村は、復興支援として、栄村の方と一緒に活動しています。おばあちゃん手作りのさるぼぼの販売や、学生が考案した味噌を使った野菜せんべいを作って販売していました。これは、栄村のぶらり農園に提供したものだそうです。



プロプロ

プロプロでは、不要になったレゴブロックを寄付してもらい、回収して個人や施設に贈る活動を行っています。ゆめひろばでは、子供たちが想像力を膨らませて自由にレゴブロックを組み立てられるブースを開いていました(*^_^*)キャラクターや乗り物などを組み立てていました!



キッズスポーツスクール

地域活動の展示の中から決められたキーワードを見つけるクイズラリー! 参加者は展示を楽しみつつ、松本市から提供していただいた景品ゲットを目指して真剣な表情でクイズを解いていました。ちなみに景品はアルプちゃんのストラップでした(*^_^*)♡



ベーカリー麦の穂

松本大学OGが家族で経営しているパン屋さん。人気なのは、松本大学と共同開発した赤飯入りの「おこひるばん」と「スイートポテトパン」。出店にあたり、夜中の1時からパンを焼き始めたそうです(凄...)梓乃森祭でも毎年人気のパン屋さんです!!

学生ゆめ



松大生がつくる情報発信のページ

11月18日19日に、松本大学『梓乃森祭』が開催されました。地域づくり考房『ゆめ』では、松本大学の学生、OB、OGと地域のみなさんが創る『ゆめひろば』を行いました。主催者からそのこだわりや、来場者の様子をお聞きしました。